

授業研究会 活動報告

初等教育科 高橋 俊 二

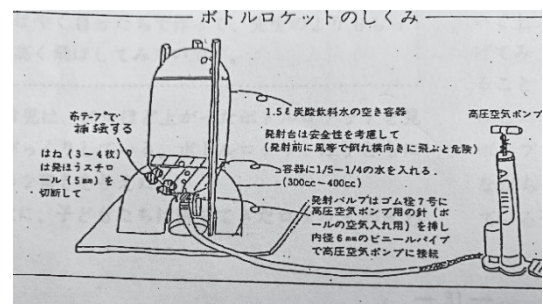
1 授業研究会について

授業研究会は、幼稚園や小学校で授業をする際の指導技術を学びたい学生の研究会です。授業づくりに積極的に取り組むために、理科の実験教材となる「ペットボトルロケット」の製作や飛ばす実験は、この研究会の伝統となっている。飛ばす実験では、改良に改良を重ねたロケットでは、ゆうに80mは飛ばすことができる。その他にも、水風船を作ったり、シャボン玉の液を台所洗剤・合成洗濯のり・水の配合を考え、より割れないシャボン玉づくりに挑戦したりした。生活科に役立つ動くおもちゃづくりや算数の教材づくりも行った。

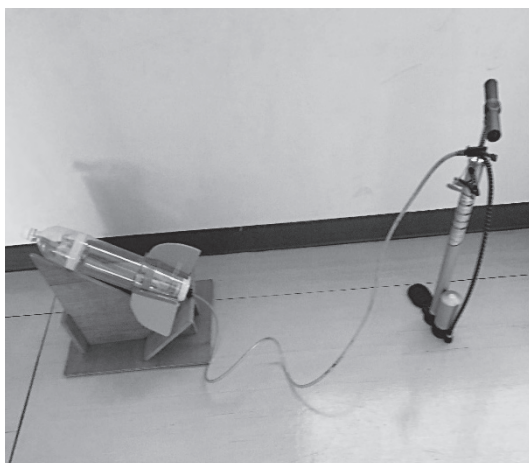
2 「ペットボトルロケット」の実験

「ペットボトルロケット」は、別府大学短期大学部初等教育科元教授の三浦清先生が大分県で初めて小学校3年生理科「水と空気」授業の教材として使い、水と空気の関係を考えながら、ペットボトルロケットを子どもたちと打ち上げた。

「ペットボトルロケット」は、炭酸飲料水等の空き容器(ペットボトル)の中に少量の水を入れ、空気ポンプで空気を押し込み、押し縮められた空気が元に戻ろうとする力でゴム栓がはずれ水が噴射される。その反作用で、ロケットが高く上がるおもちゃである。外から高压空気ポンプで多量の空気を押し込むので、強い推進力が得られ、子どもでも40mの高さまで上げることができる。



ペットボトルロケットのしくみ



ペットボトルロケットの実物



ペットボトルロケットの打ち上げ



バルーンアート

3 授業研究会 活動報告

部長 羽田野和香

授業研究会の今年の活動は、自分たちで遊びや保育を考え、研究会メンバーに実践していく模擬授業・模擬保育の形をとっていました。行った活動は、「自己紹介バスケット」自己紹介を兼ねた、なんでもバスケットです。これを機に簡単に自己紹介をすることができ、お互いについて知ることができたと思います。そして、伝統活動である「ペットボトルロケット」。グラウンドで設置して、水の量やポンプを押す回数などみんなで試行錯誤を重ね、活動をしました。遠くまで飛ばしたい、仲間の記録を更新したいという意欲から、積極的に飛ばす姿が見られました。

主な制作活動は「スライム・スーパーボール作り」「紙コップクラッカー」「紙飛行機」「ピンポンゲーム」「七夕かざり作り」です。どれも園児から小学生まで楽しめそうな制作を行いました。研究会メンバーはスライムでは、感触を楽しみ、色を混ぜ、オリジナルのスライムを作っていました。しかし、スーパーボールは難しく、作るできませんでした。

技術の習得にも力を入れました。その活動は「バルーンアート」です。バルーンアートは子どもの興味を簡単に引くことができる、持っている損はない技術だと思います。動画を見ながら、簡単なものから少し難しいものと、難易度を設け、練習しました。割れないか、びくびく

身をしぐめながらも、活動を進めていきました。

ウインターフェスティバルでは、「アイドル」という、子どもに人気に楽曲を使い園児とダンスを楽しみました。事前に沢山練習をし、役割分担をして臨みました。緊張をしている様子も見られましたが、みんななりきってダンスをしていてよかったのではないかと思います。



授業研究会メンバー



七夕かざり制作

